

令和7年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・タブレットや視聴覚教材を活用することで、児童が運動の仕方や技能ポイントを理解したり、自分の姿を客観的に把握したり、児童の思考や運動の到達度を担任が把握したりすることができた。
- ・体育部から提案された、体育朝会や全校で実施した持久走、長縄、短縄などの活動によって、どの児童も同様な運動を経験することができた。
- ・発達段階や運動経験に応じ、運動の楽しさを味わえるようなルールや課題を設定することで主体的に学習に取り組む態度を育むことができた。

(2) 課題

- ・体力テストの結果を見ると、学校全体で持久力や敏捷性に課題が見られる。学校全体の取り組みをよりよいものにしていく必要がある。そこで、学校全体での取り組み（体育朝会や全学級統一で実施した持久走）だけでなく、陸上運動領域「投の運動」を年間指導計画に取り入れたり、体力テストの練習を事前に行ったりなどの工夫が考えられる。また、どの学年においても運動量の低下（二極化）が問題に挙げられている。休み時間や放課後に自らすすんで体を動かすことができる素地を学校全体でつくり、豊かなスポーツライフの実現を目指していく。
- ・三つの資質能力の中でも「思考・判断・表現」の力が身に付いていない傾向にある。ワークシートの振り返りから、適切な自己評価ができていない児童が多いことが分かった。単元のはじめにめあてやゴールイメージを設定し、明確な目標をもって授業に取り組ませる必要がある。また、児童の実態を把握して、適切な自己評価ができていない児童には、教師が言葉かけをして修正をしていく。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・主運動につながる運動を授業の最初に行い、基本的な動き方や用具の使い方の経験を幅広く身に付けることができるようにする。 ・いろいろな動きを工夫できるようにするために、いろいろな動きを経験する時間を設定する。	・各種の運動遊びの行い方を工夫する。またタブレットで手本となる動きを示し、自分や友達動きと比べて考えたことを伝え合う時間を設定する。 ・学年で共通の学習カードを使用し、めあての確認やできるようになったことを振り返る時間を設定する。それらを次回の学習に生かす。	・各種の運動遊びに進んで取り組み、きまりを守って誰とでも仲良く運動をしたり、健康・安全に留意したりできるように、学年で体育のルールを徹底して指導する。 ・体を動かす楽しさや心地よさを感じられる活動の仕方や場を工夫する。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・持久力を高めるために、「縄跳びタイム」や「持久走タイム」などを行う期間を設ける。 ・個人差の大きい技能運動では、基本的な運動の動きを少しずつでも継続して取り入れる。また児童が成功体験を得やすいように、スモールステップで運動技能の確実な定着を図る。	・自己の運動や身近な生活における健康の課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、考えたことを他者と伝え合う場を設定する。 ・自己の運動の様子をタブレットや他者との意見交流の中で確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己の課題を見付けられるようにする。 ・学習シートやタブレットを用いて、正しい動きを知り、自己評価が正確にできるようにする。	・各種の運動に進んで取り組み、きまりを守って誰とでも仲良く運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで努力して運動をする態度を養うために、教師が価値付けを行う。 ・早寝早起き朝ごはん運動を推進し、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・高学年の実態として、体力テストの項目の中で「50m走」「20mシャトルラン」「反復横跳び」の結果が全国平均と比べて著しく低い。そこで、4月に陸上運動「短距離走・リレー」の単元を設けることで、正しい走り方を確認する。持久力を高めるために「持久走タイム」を2学期に設ける。 ・手本となる動画を見せたり、自分の試技を録画して見比べさせたりすることで、技能ポイントを正しく理解したり、見付けたりできるようにする。	・自己のグループの運動の課題や身近な健康に関わる課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えるための時間（めあての確認・共有タイム・振り返り）を設定する。 ・自己の能力を客観的に捉えることで、自己の工夫、課題、課題に合った練習の場を見付けることができるようにする。そのために、自己評価を行うことができるワークシートを活用し、児童の実態を把握し、教師が言葉かけできるようにする。	・各種の運動に積極的に取り組み、約束を守って助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に留意したりし、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。そのために、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組む態度を養うために、教員が価値付けを行う。 ・毎時のめあてや単元のゴールイメージを明確にもつことで、自分の成長を実感できるようにする。